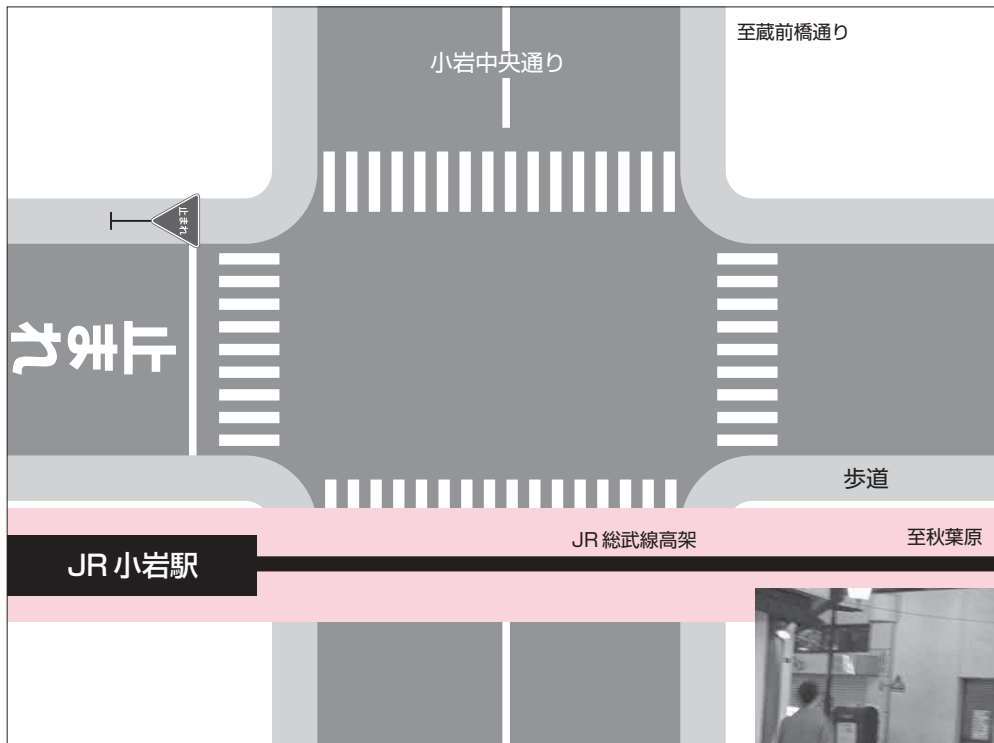


Q1 自転車531台中、日没後に無灯火だったのは何台でしょうか？



子どもを乗せている無灯火の自転車

- 観察場所 / 東京都江戸川区西小岩1丁目付近
- 観察日 / 2007年1月18日（木曜日）
- 観察時間 / 16:53～17:53



Q2 暗闇では発見しにくい無灯火の自転車を目撃！ 発見されやすくするためには、 どうすればよいのでしょうか？

自転車に関わる交通事故は、 全交通事故の約2割

自転車は、便利で手軽な交通手段として幅広い年齢層で利用されている。平成18年に発生した自転車に関わる事故は174,262件と全交通事故の約2割（19.6%）を占めている。（警察庁交通局資料）

こんな事故が
起きています

道路交通法

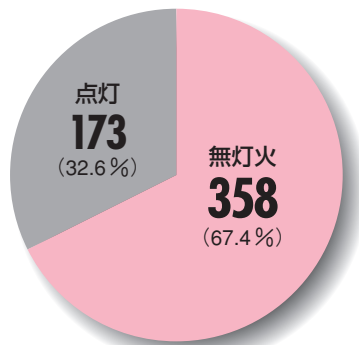
車両等の灯火
(法52条抜粋)

自転車は、夜間、道路を通行するときは、都道府県公安委員会が定める灯火をつけなければならない。

Q1
の解答

358台 (67.4%)

●日没後の自転車のライト点灯状況 (531台中)



	男性 (240台)		女性 (291台)		小計
	点灯	無灯火	点灯	無灯火	
小学生以下	1	3	3	4	11
中学生・高校生	11	47	4	12	74
成人	53	109	84	166	412
高齢者	7	9	10	8	34
合計	72	168	101	190	531

※小学生以下 (12歳以下)、中学生・高校生 (13~18歳)、成人 (19~64歳)、高齢者 (65歳以上) の判断は、観察者の見解による

この日の日入りは16時53分。1時間にこの交差点を通過した自転車は合計531台 (男性240台・女性291台)。このうち、無灯火は男性168台・女性190台、合わせて358台 (67.4%) だった。観察したほとんどの自転車にはライトが装備されていたが、年齢に関わらず無灯火の自転車が多く見られた。

照明がない場所は暗く、ライトを点灯している自転車に比べると無灯火の自転車は遠くからでは発見しにくい状態であった。また、観察場所は歩行者やクルマの通行がわりと多い場所であったため、無灯火でスピードを出す自転車をあわててよける歩行者も見られた。



自転車はライトを点灯しているが、交差点を通過するクルマは無灯火のものも見られた

Q2
の解答

●周囲が暗くなったらライトを点灯し、反射材を身につける

【解説】照明などがない場所は、無灯火の自転車はクルマには発見されにくい。自分の存在を早期に周囲に知らせる必要がある。また、クルマと衝突すると死傷するのは自転車側だ。日没後はより注意して走行することが大切。

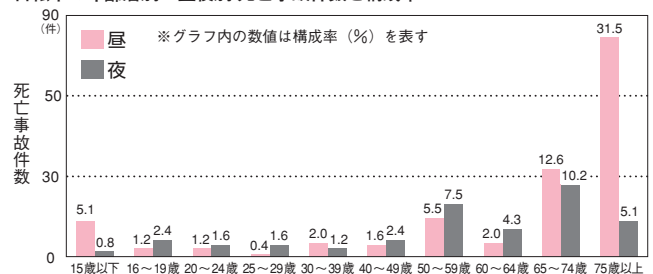
ここが
ポイント

- 反射材等の利用や、明るい色の服を身につけるなどの見られる工夫をする
- ライトが付いていない自転車には必ず装備し、点灯する

ワンポイントDATA

●夜間の死亡事故率は65歳以上が高い

自転車の年齢層別・昼夜別 死亡事故件数と構成率



平成17年の自転車事故のうち、事故が最も多い年齢層は15歳以下だが、死亡事故が最も多い年齢層は75歳以上で死亡事故の36.6%を占めている。自転車事故全体の79.1%、死亡事故の63.0%は昼間に発生しているが、65歳以上では、特に夜間の死亡事故率が高くなっている。

(財)交通事故総合分析センター資料